



熱海市観光基本計画

— 熱海市の観光ビジョン —



長期滞在型の世界の保養地

— 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」 —

2008(平成 20)年 1 月

熱 海 市



1 計画策定の趣旨

熱海市は豊富な温泉資源、風光明媚な自然景観を有していることから古くは近代日本の礎を築いた政治家や多くの文学者・小説家に愛され、別荘地から温泉リゾートの代表として栄えてきました。しかし、国内外の観光地競争の激化、旅行者のニーズの変化などにより、熱海を訪れる宿泊観光客は昭和40年代～50年代をピークに減少傾向にあります。

「国際観光温泉文化都市」を標榜する熱海市にとって、観光交流の推進は、つねに魅力的な都市であり続けること、つまり「街全体の総合力」が問われるものといえます。熱海を持つ可能性や地域資源、特性を最大限に活かすとともに、まちづくりや魅力づくりを来訪者の視点からもう一度とらえ直し、観光業に従事する方だけでなく、市民や住民そして行政からなる街全体の総合力を発揮して、観光交流を推進し集客力を高めることが求められます。

「熱海市観光基本計画」は、熱海にかかわるすべての方が一体となって魅力的な都市にしていく共通目標・指針として策定しました。



2 熱海の目指すべき将来像

長期滞在型の世界の保養地

－ 心と体を回復させる 現代の湯治場「熱海」－

熱海観光の原点である「温泉」にもう一度光をあてながら、時代と社会のニーズの変化に合わせ、長期滞在が楽しめ、何度来ても新しい発見と癒しを体験できる、市民そして観光客にとって満足度の高い心と体を回復させる「現代の湯治場」という世界に開かれた保養地づくりを目指す。

- ◆ 自由時間の増加やニューツーリズムの浸透を背景に、「1泊2日の観光地」から「長期滞在型の観光地」への移行
- ◆ 日本人の人口減少と外国人旅行者の増加、空港などの交通インフラの整備を背景に、「世界に開かれた観光地」の整備
- ◆ 現代の旅行者ニーズとなる心と体の癒しを提供できる「やすらぎのある保養地」づくりを推進

<実現のための4つの柱>

I 温泉中心主義 - 湯治場「熱海」の復権 -

熱海は大正期の熱海線乗り入れを契機に、それまでの湯治場から大衆温泉観光地へ大きく変貌を遂げたが、同時にこの頃から熱海の主役であるべき「温泉」が脇役に回ってしまった。熱海の湯治場としての歴史をさかのぼり、温泉情緒あふれる景観や温泉文化を再生させるとともに、時代のニーズに合わせた魅力を付加し、現代の湯治場を提案していく。

II もう一度行きたくなる街 - 満足度アップの仕組みづくり -

国内外からの観光客が欲しいときにいつでも熱海の情報を得られる環境、行きたいときに容易にアクセスできる環境、そして滞在して自分にあった楽しみ方を満喫できる環境づくりを進め、観光客が連泊して熱海に滞在し、また一度来た観光客が「また来たい」と思っていたくための、満足度アップを目指した取り組みを進める。

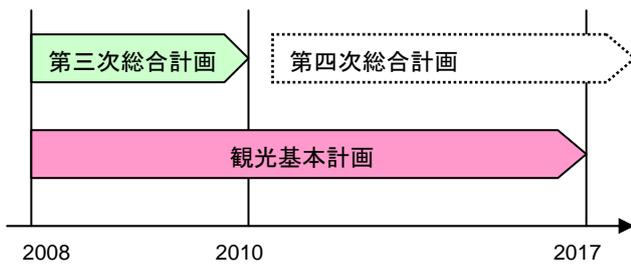
III 歩いて楽しい温泉保養地 - 経済効果の各業界への拡大 -

市内の観光施設、保養施設、商店街、飲食店などをつなぎ、回遊ルートを整備する。このことにより観光客のもたらす経済効果をホテル・旅館業以外の業界へも拡大させていく。また、同時に市民にとっても恩恵のある施設整備を進める。

IV 全員参加のまちおこし - 総合的な観光事業の実施 -

市役所、観光協会、旅館組合など、現在観光施策を実施している機関の協力・連携を強化し、熱海の発信するメッセージの統一と予算の効率的・効果的な活用を目指す。また、まち全体で観光客を迎え入れる文化をつくるため、市民に対する啓発活動に力を入れていく。

3 計画の期間



4 計画の目標

[宿泊客数]

2017年までに330万人(うち外国人10万人)にする。

[連泊率]

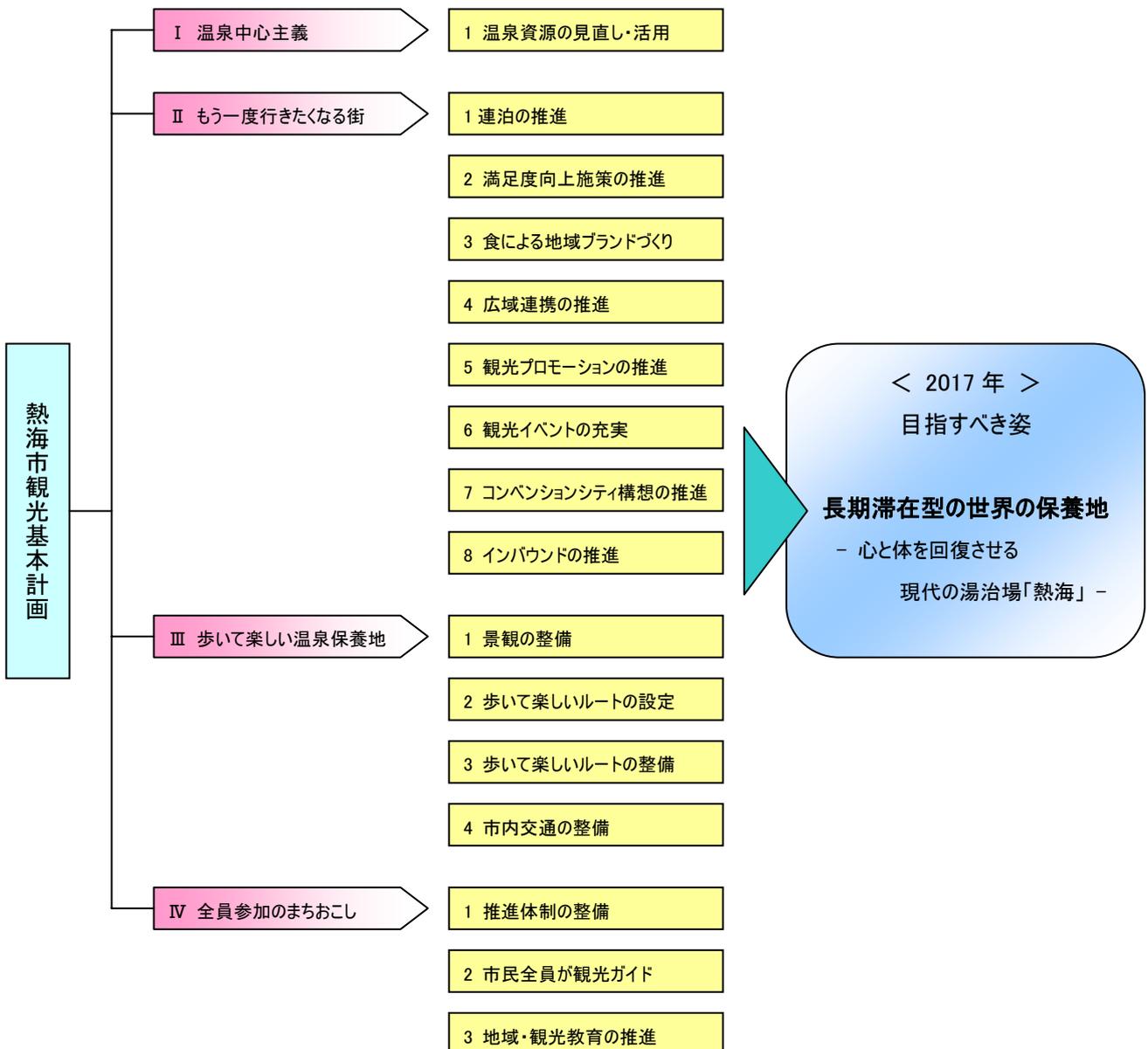
2017年までに宿泊観光客の連泊率を7%にする。

[市内経済効果]

2017年までに観光客の消費による市内経済波及効果を1,000億円にする。

5 基本計画

<体系図>



基本計画Ⅰ 温泉中心主義 –湯治場「熱海」の復権–

1 温泉資源の見直し・活用

(1) 温泉文化の再生

熱海温泉の歴史・文化を再検証するとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文豪・文学」などを体系化し、「熱海文化」を確立します。

(2) 温泉の科学的活用

「熱海に来たら元気になる」というような、温泉、食事、運動、医療をセットにした新たな湯治スタイルの提案・企画を支援していくとともに、新たな温泉表示システムについて検討していきます。

(3) 温泉を核にしたまちづくり

温泉情緒感じられる街づくりのために湯けむりによる演出や、外湯施設の整備を行うとともに、湯めぐり手形の導入、街路・景観・史跡・観光施設などコンセプトを統一した街並み整備を推進していきます。



家康の湯

基本計画Ⅱ もう一度行きたくなる街 –満足度アップの仕組みづくり–

1 連泊の推進

(1) 長期滞在プログラムの開発

観光客の長期滞在を促すため、観光客のニーズにあったハンドメイドのプログラム提案を行う体制づくり、観光案内の充実と機能の強化、「花」、「夜の賑わい」などを切り口に新しい魅力づくりを推進します。

2 満足度向上施策の推進

(1) 顧客満足度の向上

観光客の満足度を高めるためのホスピタリティあふれる対応を推進します。そのために街全体での観光地教育の推進、宿泊施設・観光施設の魅力向上、日常の延長となる機能の充実をはかります。

(2) CS 調査・マーケティングの充実

観光客の人数、動態、観光消費額など基礎的なデータを把握する調査のほか、観光客の満足度調査・マーケティング調査など、各種観光施策を構築するために必要な調査を行います。

3 食による地域ブランドづくり

(1) 食を活かした魅力づくり

「食」を熱海観光の大きな要素の一つに位置づけ、熱海らしい食の提案ができる環境を整備します。伊豆箱根エリアでの地産地消に取り組み「伊豆ごはん」を提案していきます。

4 広域連携の推進

(1) 広域観光の推進

ともに首都圏の奥座敷として発展してきた「熱海」と「箱根」がそれぞれの特徴を活かしつつ連携を進めるとともに、富士箱根伊豆エリアの市町村と協力しながら広域での着地型商品の造成に取組みます。

(2) 交通アクセスの整備

快適に熱海にアクセスできる環境づくりのため、鉄道・道路の利便性向上のための取り組みを進めるとともに、海路や羽田空港・富士山静岡空港からのアクセスについて検討・要望していきます。

5 観光プロモーションの推進

(1) 熱海温泉の新たなブランドイメージづくり

熱海のメインビジュアルの選定や、マスコットキャラクターなどの積極的な利用により、観光客の求める非日常的な世界を演出するための統一テーマによるまちづくりのブランド戦略を進めます。

(2) 効果的な PR の展開

観光客増加に向けてのプロモーション活動を強化するとともに、居住地・年齢・性別・趣味等のターゲットセグメントを明確にした旅行商品の企画・開発、提供につとめます。

6 観光イベントの充実

(1) 魅力あるイベントの展開

観光イベントの見直しを進め、熱海らしいオリジナリティあふれるイベントを開催するとともに、グリーンツーリズムやブルーツーリズムなどのニューツーリズムの推進をはかります。

(2) 新たな観光資源の創出

花による街づくり、夜の賑わいの創出、エンターテインメント施設の誘致等により、新しい魅力づくりを進めます。



あたま桜



海の幸



花火大会

7 コンベンションシティ構想の推進

(1) コンベンションシティ構想の推進

国内外から滞在型の集客が期待できるコンベンションの誘致を推進します。

8 インバウンドの推進

(1) 外国人観光客誘致の推進

ビジットジャパンキャンペーン重点市場で、今後も成長が期待される東アジアをターゲットとした誘客事業を推進します。また、サンレモ市、カスカイス市、珠海市の姉妹(友好)都市との人的・文化的交流を行います。

(2) 外国人観光客受入体制の整備

観光案内・HP・サインなどの多言語表記等により外国人観光客がひとり歩きできる環境を整備するとともに、観光関係従事者に対しての研修や基本的なおもてなしマニュアルの作成等により受入体制を整備します。



東アジア国際旅行展

基本計画Ⅲ 歩いて楽しい温泉保養地 –経済効果の各業界への拡大–

1 景観の整備

(1) 景観のゾーニング

まちづくりのランドデザインと連携しながらまちづくりビジョンを策定し、建築物のデザイン誘導や、歩行空間・オープンスペースの確保等と調和の取れた美しい景観の保全・創造を総合的に推進します。

(2) 景観スポットづくり

坂のある地形を活用した趣のある坂道の再発見や路地の石畳化、休憩施設の整備などによりまち歩きを促進するとともに、街並み、海、島々が見える風景(視点場)の整備を推進します。



親水公園

2 歩いて楽しいルートの設定

(1) 地域資源の発見と魅力アップ

歩いて楽しいまちづくりを推進するために、各地域にある「歴史」、「文化」、「風俗」、「景観」などの地域資源・観光資源を市民と一緒に掘り起こし・再発見するとともに、その魅力アップを図ります。

(2) 商店街等街かどの魅力づくり

熱海駅前や、中心市街地における個性的な商店街の整備と、その周辺の「街かど」を舞台とするエンターテインメントや各種イベントによる賑わいの創出の支援など、街かどの賑わいづくりを推進します。



スパマリーナ

(3) 歴史・文化を活かしたルートづくり

歴史的・文化的に価値のある有形、無形の資源を保護するとともに、これまで観光資源として認識されていない資源の潜在価値を発掘し、新たな歴史と文化の観光メニューを開発・PRします。

(4) スポーツによるルートづくり

小山臨海公園の総合運動公園化、市民グラウンドや姫の沢公園スポーツ広場の拡張・充実を図るとともに、マリンスポーツ・スカイスポーツ、ビーチスポーツやニュースポーツを振興します。



熱海芸妓

(5) 地区別の魅力づくり

泉、伊豆山、熱海、多賀、網代、初島の各地区の自然や歴史・文化を活かした魅力づくりを推進します。

3 歩いて楽しいルートの整備

(1) 歩道、街路樹等の整備

安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上のため、歩道の拡幅や段差の改善など歩道整備、外国人がひとり歩きできるレベルのわかりやすい案内サインの配置等により、人に優しい歩行空間を整備します。

(2) 回遊拠点の整備

公園や魅力アップにつとめるとともに、海岸部は多様な海洋性レジャーに対応した開発を進めます。また、熱海港を富士箱根伊豆エリアの海の玄関口として大型クルーズ船の誘致や周辺整備を進めます。

(3) 環境に配慮した持続可能な観光地づくり

身近な道路や公園の日常的な管理・美化活動等へ市民や企業等の参画を得て、きれいな街づくりを進めます。また、バイオマスやゼロ・エミッションに取組み環境に配慮した観光地づくりを推進します。



伊豆山神社

(4) 観光地の安全対策

観光客に対応した地震や津波発生時の避難体制の整備や宿泊施設・観光施設の防火体制の強化、犯罪等が起こらない治安の良い観光地づくりを、市民・関係団体等と協力しながら進めています。

4 市内交通の整備

(1) 市内回遊性の促進

既存のラウンドバスの利便性向上とともに、LRT やパーク&ライド方式・デマンド交通システムの検討などにより快適で安全に周遊でき、交通渋滞緩和にもつながるエリア内交通システムについて検討していきます。



湯〜遊〜バス

基本計画Ⅳ 全員参加のまちおこし -総合的な観光事業の実施-

1 推進体制の整備

(1) 観光組織の連携強化

観光関連団体の連携、統合により、マーケティング・PR・着地型商品造成・観光教育など熱海の観光を総合的にプロデュースする新たなコンソーシアム、観光組織について積極的に検討する。

(2) 観光産業の育成高度化

観光客のニーズに柔軟に対応できる足腰の強い観光地づくりを進めるため、宿泊施設・土産物店や飲食店などの観光関連施設に対する補助制度や融資制度等の支援制度について、検討・充実する。

2 市民全員が観光ガイド

(1) 温かく迎える仕組みづくり

ホスピタリティ向上を目指した取り組みを進めるとともに、観光客の要望やクレームについて市民・企業・行政が、協働で討議できる仕組みやルール構築に取り組みます。

(2) 観光案内の充実とボランティアとの協働

周辺のサービスエリア・道の駅や首都圏主要駅などでの観光情報を提供するための方策を進めるとともに、より多くの市民が観光客との交流を図れるよう「市民総観光ガイド化」を目指した取り組みを進めます。

3 地域・観光教育の推進

(1) 観光地教育の推進

熱海の歴史や文化等に関する知識を高め、より観光客に対するホスピタリティを高めるため、小中学校での観光ホスピタリティ研修や市民を対象とした公開講座の開催、郷土検定制度の導入を検討します。



観光資源棚卸ワークショップ



起雲閣ボランティアガイド

6 重点プロジェクト

「長期滞在型の世界の保養地」を目指して施策を展開します。そのうち、重点プロジェクトとしてさまざまな施策を組み合わせ、事業を推進します。

◆ 郷土湯再発見 [噺温泉再生・商店街まち並み整備] プロジェクト

熱海発展の中心にあった「温泉」に光をあてることにより、「郷土(熱海)」を再発見する。児童・生徒や市民に温泉をはじめとした熱海観光の基礎知識を普及させるとともに、温泉があることにより生み出された「芸妓」、「食」、「文学」などの歴史・文化を体系化し「熱海文化」を確立する。また、温泉場としての魅力を高めるため、湯けむりによる演出、足湯・手湯の整備、共同湯やホテル・旅館の日帰り温泉利用による「湯めぐり手形」の導入など、気軽に温泉にふれることのできる環境整備を進めるとともに、明治初期に設置された日本初の温泉療養施設であった「噺温泉」を再生し、温泉と医療・健康との連携、温泉の種類や効能などの科学的検証を進め、現代版「噺温泉」を街のシンボルとして創出する。さらに、周辺商店街などと協力しながら、大湯間温泉・湯前神社から七湯周辺を「温泉情緒あふれる街」として街並みの整備を進めていく。

◆ 熱海“開港” [みなと観光夢] プロジェクト

熱海にある都市景観、温泉、周辺観光地へのアクセスの良さなどを活かし、クルーズ船の誘致や首都圏からの新規航路の開拓などを進めるとともに、サンビーチ～親水公園～熱海港のウォーターフロントの活性化を図り、富士箱根伊豆エリアの新しい海の玄関口としての整備を推進する。また、鉄道や道路による熱海へのアクセス向上、熱海・箱根エリアの周遊性の向上、インバウンドの推進と受入体制を整備するとともに、情報発信力を強化し、広く国内外に熱海を“開港”する取り組みを進める。



につぼん丸熱海初寄港

◆ 熱海ロマン [まちなか1万歩] プロジェクト

歩いて楽しい街づくりを推進し、観光客の熱海での滞在時間を多くするための取り組みを推進する。そのために、熱海にある観光資源・地域資源を掘り起こし、まちなか全体が博物館であり、毎日が展覧会となるイベント展開と、観光ボランティアの養成・市民のホスピタリティの向上を図る。また、安心安全で魅力ある歩行空間の創出、観光案内の充実、エリア内交通システムの整備などの環境整備を進める。

併せて、上記重点プロジェクトを推進する組織づくりとして新たなコンソーシアムの検討を進めるとともに、多くの観光客を迎える市民・住民に対する観光地教育の充実を図り、観光客の満足度の高い観光地づくりの基盤整備を進める。